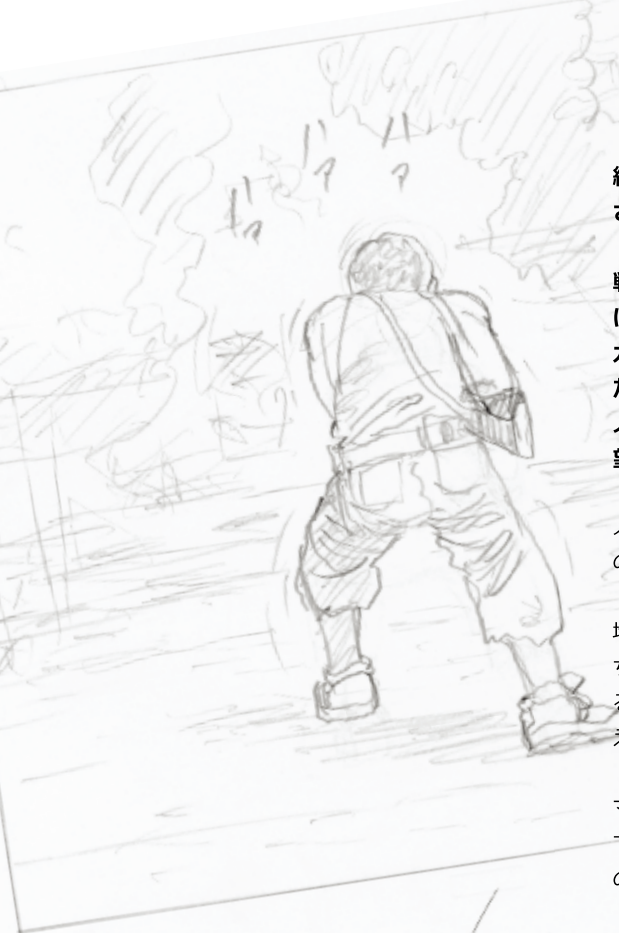


MANGA×ひとのチカラ

campaign



紛争地に生まれたことで、数奇な運命に翻弄される人々。

戦後70年の今年、赤十字国際委員会(ICRC)は日本が世界に誇るソフトパワーであるマンガを通じて、戦争や紛争の最前線で生きる人々や、戦いの負の遺産に苦しめられている人々に光を当て、彼らの日常と生きる力、希望や勇気を伝えます。

人道の敵は、武器を持って戦う人ではなく、世間の無関心や想像力の欠如、とも言われています。

地球の片隅で必死で生き抜こうとしている人々に思いを馳せ、彼らの苦しみを少しでも和らげるためにどうしたらいいのか、私たちと一緒に考えてもらいたいと願っています。

マンガと人間のチカラがコラボすることによって、世界を変えるチカラへとつなげることが、このキャンペーンの狙いです。



ICRC

ジャーナルコミック 14歳の兵士・ザザ

(仮題)

2015年10月1日(木)店頭発売
学研パブリッシングより全国書店にて

アフリカ・コンゴ民主共和国で、貧しいながらも幸せな日々を送っていた14歳の少年・ザザ。

村が襲撃にあい、一瞬にして家族や家、すべてを失ったことで復讐の鬼と化し、武装グループの兵士となります。戦闘員としての腕を上げ、瞬く間にリーダー格になったザザはある日、母親が肌身離さず持っていた笛を手に話しかけてくる日本人・神田と出会い――。

ザザと神田という、二人の主人公の目線で語られる「ジャーナルコミック」※1。彼らを取り巻く人たちの思いと共に、「紛争地に生きること」「平和な日本に生きること」が何を意味するのか、心に訴えかけます。

本作品は、ドラマ化もされた『HOTEL』や『STATION』などを手がけたマンガ脚本家・大石賢一氏による書下ろし。大石氏は昨年11月、ICRCのマンガ企画の一環として、アフリカの地に初めて足を踏み入れました。ルワンダでは大虐殺の歴史を、またコンゴ民主共和国では、元子ども兵士や性暴力の被害者、武装グループのリーダーを取材しました。

ジャーナルコミック『14歳の兵士・ザザ(仮題)』は、大石氏が現場で遭遇した人たちの声と思いが詰まる、200ページを超える大作です。作画を担当するのは、石川森彦氏。石ノ森章太郎氏に師事し、多くの『仮面ライダー』作品を手掛けているベテランの漫画家さんです。

※1:ジャーナルコミック

報道・ジャーナリズムのツールとして、世界的に一分野を築き上げているマンガ。そもそものエンターテインメント性に、ドキュメンタリー的要素が組み合わさることで、重く難しいネタも、文化的・感覚的に受け入れられ、感情移入しやすくなる。

日本では既に、歴史や文学などの難しいテーマもわかりやすく学ばせる教材として、マンガの地位は確立されている。世界の潮流と、マンガというツールの持つ発信力や受け入れやすさ、そしてマンガ文化発祥の地・日本のブランド力を活かして関心をおおひ、世界の今をできるだけ多くの人に伝えるのが目的。



マンガ脚本家 大石賢一 氏

大石賢一(おおいし けんいち)。東京神田生まれ。大手広告代理店勤務を経て、『HOTEL』でマンガ脚本家デビュー、その後も『STATION』『朝倉くん、ちょっと!』など次々とヒット作を生み出し、ドラマ・映画などで映像化される。ビジネスの現場を舞台にした人情や成長を描くストーリー作りには定評がある。ビジネス・コミック原作の第一人者。近年は、原作・脚本執筆に留まらずコミック・プロデューサーとして新しい表現の開発、人材育成、「ジャーナルコミック」の開発などにも手腕を発揮している。

作画

石川森彦 氏

石川森彦(いしかわ もりひこ)。千葉生まれ。石ノ森章太郎に師事。1975年に師匠の石ノ森から「森」の字をもらい、石川森彦に改名。1982年に独立。NHK総合テレビのドキュメンタリー番組『プロジェクトX〜挑戦者たち〜 コミック版(7)翼

はよみがえった』(原作・監修: NHKプロジェクトX制作班、作画監修: 石森章太郎プロ/宙出版)、『飲食店完全バイブル』(日経レストラン)など。原作・石ノ森章太郎作品では、『シャーロック・ホームズ』(原作: コナン・ドイル)、『仮面ライダー』シリーズ、『秘密戦隊ゴレンジャー』他の作画を担当した。

